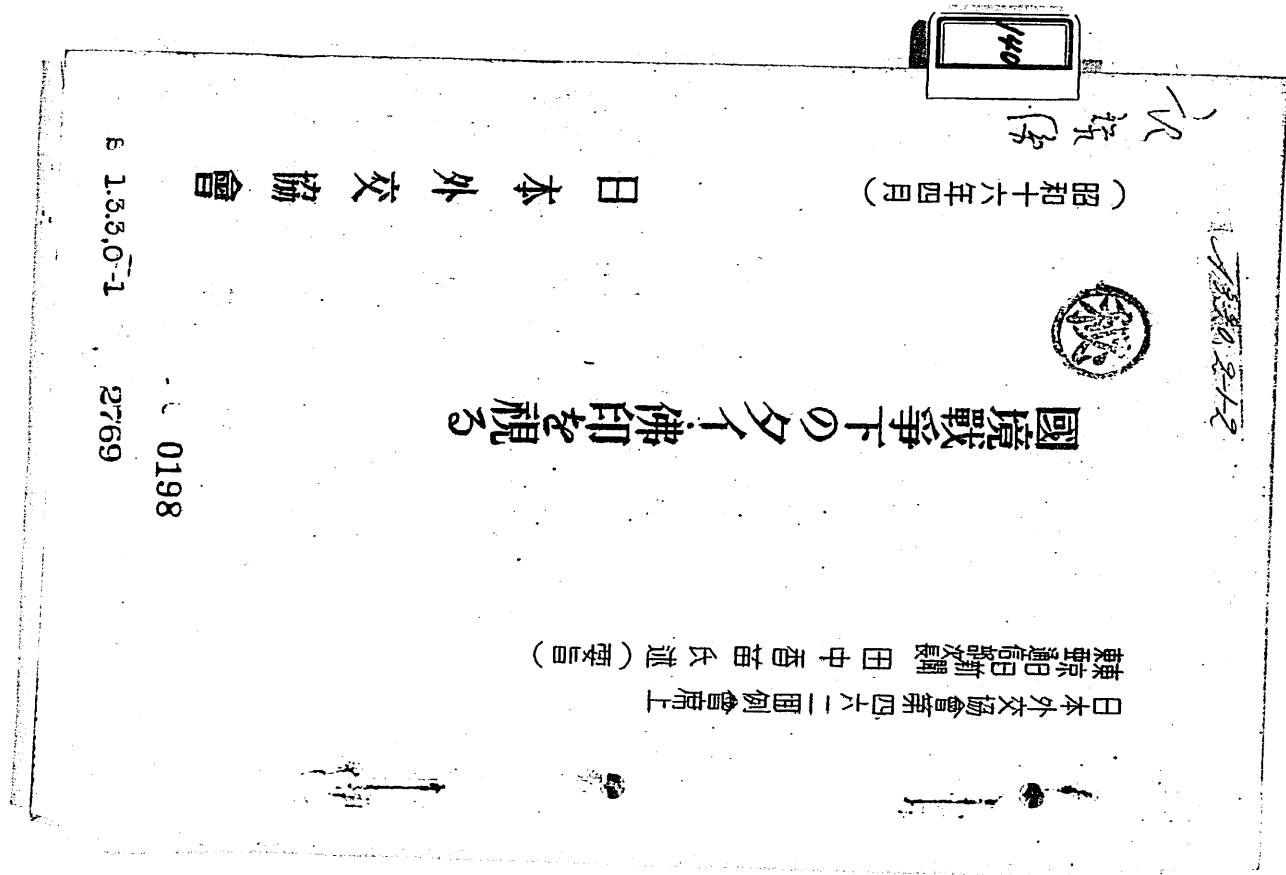




お断り

本稿は田中氏の舊協會に於ける講演要旨を筆録せるものなるが、
舊面の専断を現地に直視したる對切なる報告にして極めて機密を要
すべしと抄らず。仍て後讀者は取扱方に留意相成度し。

昭和十六年三月

日本外交協會調査局

0199

E 1.3.3.0-1

2770

目次

一、前	言	一
二、戰勝感に浸るタイ國	二	
三、泰血國の失地回復要求	五	
四、ナシヨリアムの勃興	九	
五、旺盛な青年運動	一五	
六、タイの海・空・陸軍	一六	
七、ビツ政権	一	
八、對日親善感	一	
九、外務省は英米の出店	二	
一〇、世界に中立國なしと解釈	二七	
一一、英獨は共倒れ	三〇	

ニロケヨン運動とニラナリ運動

ホ、ルアン・プロム訪日の影響	三一
六、佛印との紛争開始	三三
イ、武力前進の理由	三三
ロ、戰勝の原因	三七
ハ、佛印側軍紀の弛緩	四一
ニ、ビツ首相の独裁力と英國の經濟力	四四
ハ、佛印の對日空氣	五一
九、安南人問題	五五
十、結	五七

（目次終）

S 1.3.3.0-1

2772

S 1.3.3.0-1

2771

0200

國境戦争下のタイ・佛印を視る

東京日日新聞社 東亜通信部次長 田中香苗氏述(要旨)

一、前 言

只今林前大使から色々と御紹介を戴きましたが、私はまだ南洋問題といふやうなものにつきましては殆ど経験がないのであります。唯だ丁度タイ・佛印の紛争が支那事夜の延長のやうに見られる如く、私共の新聞社の仕事に於ても目下吾々支那関係者があの半島の問題を整理して居る關係上、一寸視て来いといふので参りましたに過ぎません。従つてその日程も前後僅かに三十七日といふやうな短期間、全部進行機利用で多少時間を有効に使つたに過ぎないのであります。

8 1.3.3.0-1

2773

0201

二、戦勝處に浸るタイ國

て、全く此處でお話申上げるやうな材料も持たないのであります。唯だ素人があの半島を視て来て筋違ひな感心せしたり、又筋違ひな点に非常に興味を携つて居る所が多いだらうと思ひまして、それだけに又此處にお集りの方々のやうに世界の問題に通曉されて居る方々から見れば却つて面白い所もおありかと思ひまして恥し氣もなくこの演壇に立ちましたやうな次第であります。唯だ私の参りました時期が、丁度日本がタイ・佛印國境問題の調停にのり出し、あの國境戦争が停止されたばかりの時でありまして、タイに於きましても、佛印に於きましても、相當事態が動く時代でありまして、短期間の旅行としましては割合に色々なものが現れたことと不幸に思つて居る者でございます。

8 1.3.3.0-1

2774

私がバンコックへ着きましたのは二月の一日でございまして、その後僅かに十三日彼處に居りまして仕事柄色々な人にも會ひましたし、出来るだけ忌憚のない意見を交換するやうな會見をしたのであります。この間私が特に強く感じましたことは、タイが有史以來の對外勝利感に包まれ、その國の將來に自信を持つて来たといふことと、そしてこの勝利感と自信からタイのナシヨナリズムがぐんと強くなつてゐるといふことと、このナシヨナリズムに依る興奮が恰も旧タイ親善といふ感情と同義語的に或は同行的に強くなつて居るといふ風に感じましたのでございします。私の印象から申しますと、終遠事件後の蔣政権が支那を思ひ出すに及んで、蔣介石等は度蔣介石が西安事件の直前、蒙古の徳王との戦において、蔣介石等はこの戦に勝つたと思つたのであります。あの當時對蒙古戦争に勝つたといふ感情は、西安事件の端に一時消されて居りましたが、西安事件が終つて少し落ち着いた頃から、西安事件から國民の目を奪

8 1.3.3.0-1

2775 0202

はんとする政策もあり、對蒙古勝利の宣傳が開始され、且つ支那國民も興奮したもので、當時支那に先づ現はれた現象は蔣介石政権が内的充実を因つて最初の對外戦争に勝つたといふ氣持ちでした。彼等は蒙古の背後に日本ありとしてゐたので、蒙古に勝つたにあらすして日本に勝つたのだといふ風な戦勝感が支那の國民を包んで行つた、少くともこの對蒙古戦争即ち終遠事件に對する戦勝感、蔣政権に一つの對外的自信、對日的自信を與へる動因になつたやうに私は思つたのであります。その目標と性格においては大違ふが、戦勝と自國の將來に對する自信といふ点から、蔣政権の對蒙古戦争後の状態に似たものが今次國境戦争後のタイの朝野の空氣であると、私は考へました。タイは最初の光輝ある對外戦争に勝つたのだ、而もそれが久しくタイが恐れて止まなかつたフランスに勝つたのだといふ氣持が出て居つたやうに思ふのであります。

8 1.3.3.0-1

2776

0204

レ・シヨンを押へ、唯だ只菅藩かに東京會議の結果を見せらうといふ風を政策でもありました關係上、彼處に戰勝デモがあるとか、國体行動による勝勝するやうなものは見られなかつた。

ロ、ナシヨナリズムの勃興

併しなから國境戦争の結果と致しまして一般の空氣が昂揚して多量に多量にありまして、この傾向が非常に戦争と共に強くなりまして、彼處では日本流に言ふならば幾國行進曲或は進軍歌といふ風な歌が歌はれる。タイの要請局長であり兼任村大臣であるワフンカイチット・ワタカハ——この男は自ら作曲して歌にするといふ悪用な人でありまして、彼の作った愛國歌がひ数年來校々と歌はれるやうになりまして、タイで最近歌はれる歌の中には彼の作品が非常に多いのであります。この傾向が非常に戦争と共に強くなりまして、彼處では日本流に言ふならば幾國行進曲或は進軍歌といふ

た風な歌が非常に流行るやうになつて居つたのであります。また映画館では國境戦争のニュース感氣を映し、國防軍の精銳部隊の行進する様や、青年の行進を見せ、國民に昂奮を興へておました。外人崇拜のタイ人が、ひじく英米佛人を白眼視する出来事もありました。タイの政府要路に於きましても戦争に勝つたといふ自信が諸政策の上に現はれ、國民は戰勝感に活氣が出てゐました。この戰勝感はず然に彼等の今後の運動、即ちナシヨナリズムの運動に自信と見做しとを興へたものと思ふのであります。曾て今から数年前の語でありますが、タイの問題などをやつて居られる方は思ひ出されることと思ひますが、例のガイチットがタイを強くする爲にナシヨナリズムの運動を展開せねばならないといふ主張を持ちまして、彼處の大學でナシヨナリズムに関する講演をしたところがこの講演が非常に物議を醸しましてその後議會の問題になった。何故さういふ事になるかと申しますと、御承知のやうに

6 1.3.3.0-1 2781 0205

2782

6 1.3.3.0-1

タイはアムレー、ビルマ、暹羅といふ風に歐洲列強植民地勢力に覆ひ込まれて居る、而も金融的、経済的には英國に握られて居る、中小商工業においては華僑の勢力が圧倒的に強い。斯ういふわけであります、英國と華僑勢力はタイの内政にまで大きな把握力を持つて來たわけであります。しかるにナシヨナリズムの本能は必ず自主独立を求め、また偏狹性で、また排外主義に強くなり、外に國では外力の排除を第一義的に強く主張することになります。外力排除、さういふ行方方は當然に英國を刺戟し、華僑を刺戟し、フランスを刺戟するといふ意味に於て、彼處の支配階級がその点を一番懸念して居つたわけであります。殊に當時の支配階級は革命後であるとは申せ、尚ほ残存勢力が相當に強かつたわけであります。斯ういふ考へ方が支配階級にあつたが爲に、不思議なことにはナシヨナリズムの警鐘が非常に問題になつた。そこで論議が行はれるといふやうなことがあつたわけでありまして。この時丁度まだ首相に

6 1.3.3.0-1 2783 0206

なつて居らなかつた國防相であつたピラッはガイチットの擁護者となり、ガイチットを支持するやうな演説をした。これがために反對黨の議員はピラッに喰つてかゝるといふ事件が起つた。そのとき泰國主義者の議員は、ガイチット攻撃の議員を捕へて池に投げ込んだ事件があるものであります。この事件までのピラッといふものはナシヨナリズムにとりてはつかりした態度を示さず、慎重に行動してゐたさうです。勿論革命をやつた大士者でありますし、タイの強化といふことを考へて來た人ではあります。タイの政治家が常に外的要素を考慮せねばならなかつたといふ事実と、政界に於ては何處に誰の廻し者が居るかも知れないのでこの点非常に警戒をお互にし合ひ、猜疑心が強い、餘りはつかりした本心を曝け出すといふことは危険であります。ピラッ程の男も曖昧な状態を續けて居つたさうであります。この事件以來彼がはつかりとナシヨナリズムの立場といふ点に集り出して來たと言はれて居りますが、そのやうな事件があつ

6 1.3.3.0-1

2784

た位であり可。

三、旺盛之青年運動

その後に於きまして彼はラタニヨム、英島に歸すとスライト・コン
ンサエーションといふのですが、これを内閣の中におき、一つのナ
シヨナリズム再場運動の本部にしたのであります。このラタニヨム
からタインのナシヨナリズムを休り上げて行く運動を開始して居りま
す。例へば過般シヤムといふ國名をタインといふ風に改へて行つた運
動、それから更に彼等に於きましては宗教が絶対でありまして、タ
インの間ではお釋迦さんの方が國家以上であるといふ風になつて居
つたのを、斯ういふ思想に對して反駁致しまして國家至上主義を唱
へ、更にこの運動に關係致しまして國旗掲揚運動を始めて行つた、

==エウキヨシ運動とエウナリ運動==

6 1.3.3.0 -1

2785

0207.

2786

1.3.3.0-1

斯ういふ風に内閣の内部にラタニヨムを作つて、其處から強國運動の指令を發して行く。更にこのラタニヨムに先立ち、ビヅンは青年運動を展開したのであります。この青年運動は現在の大藏大臣のプ
ラジットとよめに二つの方式ではじめられた。即ちプラジットはビ
ヅント共に一九三二年の王族專制政治打破の革命運動をやつた一派
の旗頭であり、思想的には彼の方が重んじられましたので、イン
テリ青年に勢力がある。プラジットは青年に封建政治打破の思想を
叩き込んで行く運動を始めたのであります。一方ビヅンは青年に軍
事訓練を興へ青年學生を第二國防軍たらしめる実質運動をはじめた
この運動に於きましてビヅンのやつた仕事はぐんと大きなものにな
つて現代ニルが契を結んで來て居ります。これはタイ流に言ふなら
ば「エロクヲヨメ」運動と申すものでございす、これは中學の四年生以
上、高等専門學校、大學校等の學生を對象に致しまして、之を三期
に分けて居ります。第一期は中學四年から中學六年まで——彼處の

11

中學は六年制でございます——第三期が高等、専門學校、第三期が大體、第一期に於きましては次の訓練を喫へた、第二期に於きましては下士官の訓練を喫へて居ります、第三期に於きましては將校の訓練を喫へて居るのであります。これは元々志願制度であつたのであります。最近に於きましてはこの志願制度であつたエロチヨン運動に殆どの學生が參加致しまして、現在タイはこのエロチヨン運動の學生数が十萬と言はれて居ります、このエロチヨン運動に參加した連中は全くの軍隊教育のやうなものであります、ヒアインそのものが考へたのは國防軍強化の一翼と致しまして、第二國防備としての青年運動を始めて來つたのであります、同時にこのエロチヨン運動に對しまして女學生を對象にしたつまり非常時に際しまして銃後を守る看護救護、さういつた方面の仕事をする女の運動と致しましてエロチヨン運動をやつて居ります、この救は現在三萬人と稱されて居ります、このエロチヨンとエロチヨンの運動が少くともタイの明日

一五

E 1.3.3.0-1

2787

0208

目 夕人の海・空・陸軍

を支配する運動だといふ風に見られて居ります。事実はペンシツクに
見るにこれ等の青年達は一般タイ人と違ひまして何か元氣さうな希望
を持つたグループのやうに私達にも映つたのであります。このエロ
クソンの連中が今度の戦争に際しまして、失地回復に國民を動員せ
よ、タイ人の血の最後の一滴が、失地回復か」と云つた激しいスロ
ーガンを掲げまして町にデモンストレーションをやリ、又中には戦
線に従軍致しまして弾藥を運ぶとかさう云つた方面に相當に活動し
たのであります。エロナリの連中は戦線から歸つて来る負傷兵の看
護救済、斯う云つた方面に活動して居るのであります。今度の戦争
を通じて斯う云つた現象が見られたのであります。

21

1.3.3.0-1

2788

軍隊の方を見てみますと、御承知のやうにタイの海軍は日本で軍

艦を建造し、日本海軍の訓練指導を受けて以来、彼等の海軍は日本
型軍艦を中樞基本部隊とし、かなり強化されたのであります。

今度の戦争に於て彼等の日本で造った優秀なる軍艦がフランスの
艦隊にやられました。この軍艦につぎまして面白いエピソードも
ござえます、それは此席に海軍の長老の方々もおいでございまし
て、申し上げるまでもないことと思ひますが、軍艦の搭載砲数といふ
ものが決つて居るに拘らず、タイ側では我々に二門多く積んでくれと
いふ、搭載砲の限定があることを幾り説明しても肯かないので仕方
がないので、二門多く積んでやつたさうであります、その船に少し
安定感が無いさうであります、斯んな事もあつさりフランスの軍艦
にやられた理由であらうといふ風に申す者もございます。兎もあれ
タイの海軍が日本で軍艦を造つて以来、見違へるやうになつた。又
日本とタイ海軍の関係は緊密となり、彼等は非常に親日になりまし
て、現在のタイ政界の巨頭と言はれるワアレン・シン——ニ

これは軍令部長でございます。これが率いる海軍勢力が先づタイ
の親日勢力の牙城とされて來たわけでありませう。この海軍も非常に
今度の戦争には士氣上つたさうであります。陸軍、空軍に比しま
して先づ我はない。併しなからこの海軍を今日までに造り上げたに
つぎましてはワレン・シンの勢力があつたし、彼を援助して來たセ
レンの迄々ならぬ苦心があつたさうであります。

それから空軍でございます。この空軍が今度の戦争の勝敗を決
したポイントであるといふ風に見られて居ります。この空軍は色々
理由があります。今次國境戦争に偉力を發揮し得たこと、又日本の
同席と好意を感じており、金庫を擧げて日本に感謝して居ります。
この空軍の感謝の状況を四らすも私は見ることも出来ません。私が
バンコックに居る時に坤甸の遂田少将がやつて來られた。艦が二月
十一日であつたと思ひますが、その翌日の十二日、ヒラは遂田少
將を彼等にあるスワン・クラッアの首相官邸に招待致しました。こ

S 1.3.3.0-1

2790

S 1.3.3.0-1

2789 0209

の招待位は何でもないであります。彼等に長らく居る人の話を
聞いて見ますと、ヒラが政権を取つて以來外國人をスワン・クラ
ッアに招待したことは殆どないのだといふことを申し上げて居りました。
又その歓迎會の様様を聞くにヒラ政権はじまつて以來の盛大さで
あり、念入りでもあつたといふことを申し上げて居ります。その翌十三
日に遂田少將はサイゴンに歸られたのであります。丁度その日は
私のサイゴンに向けての出発の日でもありましたので飛行場に参つ
て居りました。私たちが飛行場に行きますと、タイの空軍は長官以
下總出で遂田少將を送つたのであります。空軍首腦がつかける。
威儀を正した儀仗兵が出てゐる。十台のタイ軍用飛行機が爆音を唸
らせてゐるのです。何事かと見てゐると、空軍長官の先導で遂田少
將は儀仗兵を闊歩し、愈々出立すべく日本の軍用飛行機にのり込む。
これよりさき爆音を喰らせてゐたタイ軍用機は、タイの空軍參謀次
長が自ら操縦する飛行機をトップに続いて一機二機三機と全部で十

機が見事な編隊を組んで飛び出し、遂田少將坐乗の日本飛行機をカ
ンボジアの國境まで見送つて行つたのでした。飛行場にあつた日本
人もタイ人もビックリしてゐました。ともあれ、曾て海軍があつた
やうに、空軍が頻りに又日本人に非常に信頼すると同時に一面年來
ことに國境戦争を契機に空軍自体の整備が進んで行つて居る、更に
陸軍の方面も同様に強化されて參りました。而し強化されたといつ
ても一两年前のタイ軍としての話であつて、先進諸國から見れば敬
ふるに足らぬことは勿論であります。寧ろタイ國防軍の強化がはじ
まつたといふが、向上への意氣が大いに旺盛となつたといふことで
あります。このやうに國境戦争前から、國境戦争を通じて國防三軍
の強化、而もこの強化の中に日本に對する感謝、日本に對する期待
日本に對する好意といふものがこの戦争に依つて非常に強く出て參
つて居ります。ヒラは國防三軍の強化、青年運動の強化といふや
うな方法に依りまして彼の雄力の増大を圖り、更に彼自身が今度失

S 1.3.3.0-1

2792

S 1.3.3.0-1

2791 0210

地回復運動に集出したわけでありましたが、この失地回復運動の過程に於て日本との関係をより密着に於て終つたといふ事柄からタイの勝利は同時に日本への感謝といふ形態を執つて町にしみ出て居つたのであります。

五、ビラノ政権

イ、對日親善感

この日本に對する感謝親善感といふものは随時に色々な形で出て参りましたが、それ等の一つのエピソードを申し上げます。或る日本會社の重役さんがタイの地方を旅行した時の話がござります。この人が汽車で奥地を旅行して居る時に丁度兼ねはしたタイの紳士がつか／＼とその重役さんの所に参りまして、自介は日本の方と一

緒に汽車に乗りお話しする機会を得たことを光榮に思ふと言つて長い間色々な話を續け、東亜の兄弟といふ感情を露出した後に、自介としてはその機会にあなたと親交を結びたい、その即ち私のこの指輪を取つて下さいと言つて極めてぬた指輪をその重役に呉れようとしたのであります。この指輪は金にダイヤモンドを入れたものであつて、実に立派なものであつたやうですが、重役さんは非常に困りまして、実は御厚意は有難いが、今日日本は戦時下であつて、金とかダイヤモンドを持つなどといふことは國民の戦時道徳が許さぬからといふことで漸く断はることが出来たといふ話がございました。又バンコックの町をブラ／＼して居りまして、從來日本人があの方面を旅行した際に、タイは親日々々と言ふけれども、ちつとも親日でない、例へば税関に於て実に酷い仕打をする、税關の交通機關であるサムローミのやり方といふものは油断がならない、といふ風なことを屢々私も聞いて居つたのであります。ところが時期がよか

b 1.3.3.0-1 2793 0211

2794

b 1.3.3.0-1

つたせいもありませうが、税関に於きましては実に簡単にやつて呉れた、町を歩いて見ましてサムローミについてもちつとも言々として不愉快な思ひをすることがなかつたのであります。斯んな事は皆通の場合當然であるのですが、バンコックの土地に長らく居る日本人に色々訴いて見ますと、この頃のこの空氣といふものは非常な変化だ、前は斯んな風がやなかつたといふことを申して居ります。こゝに私などは上海や廣東、香港等の事屋のふびい奴に會つてゐるので、よけいにサムローミがよく見えたこともありませう。このやうな変化が出て参つて居りますが、この変化の背後に於て現在のビラノ政権のやつたやり口を一應吾々として一瞥して見なければならな

いと思ひます。

ロ、外務省は英米の出店

b 1.3.3.0-1 2795 0212

一兩年來ビラノは日本に接近して來た。彼の東亜主義的思想も、そのことなから、國內政治における親英勢力との抗争関係も、彼の對日接近の理由であつたやうでせう。彼の恐るべき競争者は大蔵大臣のラジツトであつた。彼は同じく一九三二年の革命の立役者であつた。頭もすぐれてゐる上に、後年英國の支持があつた。ビラノは確力を強めラジツトを従へてゐるとはいへ彼の政治的基礎は完全無缺ではない。これが強化の一手役としても失地回復はよい見込みである。この失地回復は日本の地味と東洋主義を考へしめた。そこに彼の對日接近の深慮もあつたと思へる。ともあれ、複雑な背景から日本に接近したビラノは國境戦争以來一層この態度を鮮明にした。かかる行き方は當然に日本へ對立するものと遠ざかる結果を持つた。日本の出先官憲は身内の如くビラノと會へるやうになつたわけでありませう。ビラノは親英派の牙城たるタイの外務省といふものを警戒して來た。タイの外務省といふものは御承知のやうに全く英米勢力

b 1.3.3.0-1

2796

六
憲法目すべきことでありませう。このやうなビゾンの態度は更に外
人方面にも非常な影響を與へ変化を見せたのであります。即ち例の
クロアチアビゾンに中々會へなくなつて参つたのであります。
又本年の一月にアヘン總督のトーマスが彼處にやつて参りましたが
彼も僅かに五分位でビゾンに追押はれて居ります。その後濱洲の首
相が来たことがござりますが、濱洲の首相も到頭ビゾンに會へな
つたのであります。斯んな状況が政界の最上層で起つて居る。又
斯うした首腦部の考へ方は直ちに下部に遂致して居るものと見え
まして、去年の暮に失地回復のデモンストレーションが行はれま
して、このデモンストレーションの真意をアメリカの海軍武官と日本
人の或る人が同じやうに撮影しまして問題を起こしたことがございま
す。それは丁度デモンストレーションの一致が國防省の前を通過し
て居る際に起つた事件であります。彼處に於ては眞實の撮影が増
時禁ぜられて居つた。その禁を犯してアメリカの海軍武官が應具を

B 1.3.3.0-1

2798

のラヂオである。殊に英國の公使のクロアチアはタイに既に三十八
年も住んで居つて、タイ語が自由自在に喋れる男であり、又聞く所
に依ると第何夫人にタイ人を持つて居るといふ話であります。この
やうな英國公使は英國のタイに於ける長い勢力、之を背景として
てタイ政界に於ては莫大なる力を振つて來たと言はれて居るのであ
ります。これ又外務省に非常に強い影響力を持つて居る。この外
務省であるが故にビゾンは外務省を警戒した。然し彼は独裁的地位
にあると同時に外務大臣でもある。そこで彼は日本の公使などに何
ひまして「俺の所の外務省は英米の出店であるから危くても何も語
が出来ない」と自ら言つたことがあるやうです。これはほんとに嘘
か知らんが、このやうな話を聞いて來ました。それがためであるの
か、ビゾンは昨年以來の色々な話合に全く外務省には何も知らせ
ずにビゾンが外交交渉を日本側とやつて來たわけでありませう。此
は彼が外務大臣であり、独裁者だから勝手に出來たことではあるが一

B 1.3.3.0-1

2797

0213

以上によつても、疑はれるやうに、日本側は未だ曾てないやうな都
合の好い環境にあり、タイ政府の首腦部との間に語がし易い條件に
置かれて居るのであります。兎もあれこれはビゾンの失地回復運動
に對して彼の考へ方の根柢を證據付けて行く諸現象ではなからうか
と私は考へるのであります。それは失地回復運動をやる爲には英國
との連繫を漸次薄めて参り、之に代るものとして日本との連繫を深
めて行くといふコースを取り始めた、かくともタイが失地回復運動
に參出す爲には從來の英國關係、フランス關係を考へて見ましても
單にフランス一國だけで済む問題ではないのであります。フランス
に對して行つた失地回復運動は當然將來に於ては英國側にも波
及せざるを得ない條件に立つて居る。何故ならは、英國も亦タイが
領土を奪つた國であるからであります。随つて失地回復運動を英
國が好む筈がない。而も之をタイが敢てするには相當な決心と見透
しがあつたわけでありませう。どういふ見透しに立つてこの行動を起

B 1.3.3.0-1

2800

撮つて居つたのです。それを見付けた憲兵がアメリカの海軍武官を
擣つて寫眞機を取上げて居ります。同じ事をやつた日本人はその時
には寫眞機は取りましたが、直ぐ鄭重なる謝罪をして返して來て
居るのであります。又私の記憶にして誤つておないならばアメリカ
武官と同行して居つたライフの記者はその時に拘留されたのであ
ります。斯んな出來事は國境戦争以前のタイの状態から見れば、ま
かりな事であつて、神話的なことかも知れませんが、さういふ事態
が起つて参りました。タイ人の間に「俺達は東洋人
だ」「俺たちは欧米人の奴隷ではないのだ」「タイの國家は至上だ」
といふやうな意識が生れて参つたのだと思はれます。
現はれるといふ現象を呈して参つたのだと思はれます。

ハ、「世界に中立國なし」と解釋

B 1.3.3.0-1

2799

0214

それからもう一つは「ヨーロッパ戦争は英独果して何れが勝つと
思ふか」といふことを尋ねて見ました。之に對しまして彼は「ドイツ
も勝たない、英國も勝たない、恐らく一番はつきり言へることは
西方共破れるであらう。即ち今次戦争を通じてヨーロッパは崩潰の
一途を辿るに違ひない。ヨーロッパの破滅の目が見えて居る」といふこ
である。この機會を利用してアジアは抬頭せねばならないのだ、こ
れは自分だけの考へではない、ヒツシもさう考へて居る」といふこ
とを申して居りました。この二つの問答の中に私はタイが失地回復
に戦争を以てしてでもやらうといふ決心が付いた根柢がやなかりう

三、英独は共倒れ

である。タイの前進路は分つて居るがやないか」といふことを彼が
答へたのであります。

したがといふ點に興味を持ちまして色々讀べて見ました、ところが
ヒツシの信譽厚きある要人と話をしました時に、彼の語のうちから
「これが失地回復に蹴起したヒツシの政治哲學だ」と思ひ當つたの
であります。無難な質問でありましたが「若し今日の世界情勢がら
見て米國の對日攻勢がこのやうに強く日本に迫つて来るならば、日
本としても我慢の出來ないやうな時期があるに違ひない、その場合
は日本も立つてあらう、そこに日米戦争が起る。日米戦争は日英米
戦争である、その場合には當然この一帯も問題にならざるを得ない
だらう、その時にタイは依然として從來の中土政策を進めて行くの
か」といふ質問をしましたら、彼は非常に深刻な顔を致しまして次
のやうに答へたのであります。「大體中立國などといふものが今日の
世界に存在するか、ヨーロッパのあの弱小國を見てみ給へ、彼等の
迎つた運命は中立政策を執る國の行くべき運命だ、タイもそれは能
く分つて居る。勿論吾々は今更英國の側に立つわけにも参らぬわけ

6 1.3.3.0-1 2802

6 1.3.3.0-1 2801 0215

はつきりした時期は私忘れましたが、向ふの國防副大臣のルアン
がロムが東京へやつて來て居る、このルアン・フロムが東京へやっ
て來たことについては何故かバングコックの新聞も日本の新聞もちつ
とも書かなかつた。フロムが東京を見てバングコックに歸つて來て最
初に閣議で日本印象記を述べて居ります。閣議に於て彼が言ったこ
とは「若しタイが日本と事を構へるやうなことがあつたならば、日
本軍は三日にしてタイ全土を占領してしまふだらう」といふ激烈な
演説をしたさうです。ルアン・フロムといふ男は大體が親英派と
言はれて來たし、ヒツシの腹蔵ではあります。野心家で或はヒツ
シの後釜を狙ふ一人のやうに言はれて居つた男です。それが東京訪
問以來彼の考へ方は非常に変わったといふことであります、彼が東京
に來たとき、あまり日本側が構はなかつたので非常に淋しいやうに歸
つて行つたといふことであり、又對日態度は必ずしもよくはないと
いはれたのですが、一面又彼は相當に重要な任務を持つて居つたの

6 1.3.3.0-1 2804

かと思ひます。
水、ルアン・フロム訪日の影響
その考へ方に立ちまして歐洲情勢を睨み、佛印の状態を睨み合せ
そこに彼等は今こそやるべき時であるといふ氣持になつたに違ひな
い。もう一つは、日本の動向であります、日本がこの支那事変を遂行
しつゝ總てその前進敵形から見ても佛印が日本と眞に協力せないか
ざり日本が佛印に好意を持つものとも思はれなかつたやうだし、佛
印が眞に日本と協力するほど東亞の事態を認識してゐないから、必
ず日本とは衝突であるし、さらに佛印における佛人の現状維持的支
配力は弱まり、安南人等の民族主義的抬頭があると見たと考へられ
ます。こゝに考へた考へ方がタイの行動に重大關係があつたわけであら
うと思ひます。この点などにも考慮致しまして、昨年の夏でしたか、

6 1.3.3.0-1 2803 0216

だといふ人もあるやうです。ともあれ、このプロム・バン・コック歸還以來彼の日本の威光に對する評價は大であつたし、ヒヅンの頭の中にはタイが起さんとする行動について東亜の安定勢力にして強大なる日本がタイに取つて敬導し得る東亜の長兄といふ考へ方が一層深くなつたやうに聞いて居ります。

六、佛印との紛争開始

イ、武力前進の理由

この間、東亜の事態は支那事変を中心に大ぎなりぬりを示しつつ、一九四一年春には日本軍は豫蘇路完結のために、佛印當局との交渉の結果平和裡に佛印北部に進駐した。佛印は心に日本に對する敵愾を帯つてゐたにしろ、日本に正面切つて敵對出來ず、日本に

協力する以外に道がないやうになつてゐた。一カタイは、第二次政
洲戦争が切迫した一九三九年、フランスのタイ佛印緩和政策にのり
國境問題の處理を考へてゐたが、佛印との不可侵條約締結において
交換條件にこの問題をとりあげて來たのでありました。この外交交
渉はフランスの聞くところとならず、次第に國境問題は重大化しつ
つあつたのであります。タイにおいては佛印に對する失地回復の要
望は熾烈となり、ヒヅン政権としてはも早や中道にして阻止するこ
とが出来ないほどのものとなつてゐたし、又國際情勢ににりみ合し
て、武力発動も許せずとの体勢をと、のへるに至つたのであります。
佛印がフランス本國の對独降伏により地位が脆弱化し、又東亜にお
ける日本の支那事変處理の大方針は佛印進駐といふ結果を持つに至
つたので、佛印に對して武力発動をも敢て許せずのタイの失地回復
運動は、絶好の機會に思はれたわけでもあります。このやうな複雑
な條件により、昨年秋タイが對佛印失地回復運動において武力前進

6 1.3.3.0-1 2805 0217

2806

6 1.3.3.0-1

を開始するに至つたものと考へます。

このやうな條件及び國內的な諸條件、又彼が育成して來たこ
ろの愛國熱といふものが背景をなしまして國境戦争にはタイの士氣
が大いに振つたわけでありませう。この状況は戦争の結果がタイの勝
利に終つたといふことだけでも言へるのでありますが、戦線を見て
來た人達の語に依りますればタイ側の捕虜が一人もなかつた。之に
反しまして佛印側の捕虜は相當にありました。佛印の捕虜の話をい
たしますと一寸面白いことがあります。現在バン・コックのアン・ポ
ン公園に佛印軍の捕虜が収容されて居ります。約百五十名で、殆ど外
人であります。私もアン・ポン公園に行き捕虜の収容されて居る状態
を見ましたが、驚いたことには公園の中に金網で作つた區劃が出來
てゐた。その中に数棟のバラック建がありまして、そこに佛印軍捕虜が無数
にゐるのであります。金網の外から彼等の行動は手に取る如く能く
見えるのであります。タイ人は之を動物園を見るかのやうに押し掛

けてゐました。曾つて自分達を支配したやうなフランス人を物珍
うらやまに眺めて居るのであります。中にはバナナなどを持つて行
つて投げつけて居る者もあるといふことであります。これは何れも猿に
物をやるといふやうな場合ではないといふことであります。彼等は
御承知のやうに佛教の盛んな所でありまして、喜捨と言ひますが、
隣れな者に物を與へるといふやうな習慣が強い所ださうでありまし
て、恐らくそれは佛教上の見地から考へらるべきものと思ひますが、
兎に角珍風景がバン・コックにあるのであります。英米の公使など
もバン・コックに一つの行事が殖えたと云つてアン・ポン公園のことを申
して居るやうであります。これは恐らくヒヅンが一つの素林なるす
シヨナリアの政治と致しまして「やう白人を恐れる必要がないの
だ」このやうに白人も隣れなんだといふことを國民に見せて居
るものと私は見て参りました。

6 1.3.3.0-1 2807 0218

2808

6 1.3.3.0-1

ロ、戦勝の原因

この戦争に於きましてヒヅンはタイ軍に對して戦線で捕虜になるよりは戦線で死んで来いといふ劇烈なる訓示をして各部隊を送つて事柄でなかりうかと思ひます。

それから更に戦争に於てタイが勝つた原因の一つに武器が割合に揃うてあるといふことでもあります。佛印側は武器が揃うてゐない。実に酷い武器を持つて戦争して居たといふことも原因の一つであります。これも亦アンポベ公國の語であります。彼等に佛印軍から鹵獲した飛行機、タンク、駆機関銃、小銃が置いてございます。之を見てみますと飛行機などもガタ／＼で十年も前に出来たやうなものでございます。タンク、小銃又同様であります。吾々武器のこ

等したナと驚いた次第であります。ところがこの武器の酷さにつゞまして四りすも佛印を旅行中にフランス人の口から私は成程と思ふ話を聞かされたのであります。それはサングレからハノイへ行く汽車の中で國境から歸つて来りました一フランス將校、たしか大尉でした。彼は外人部隊の將校のやうであります。色々話し掛けて色々な事を話しました。その中で彼が言ふのに「俺は例のタイ、佛印國境戦等が最初に起つた地点（名前はタケクといつたと思ふがハツサリセぬ）の中備隊長をして居つたが、突然タイの飛行機三台がやつて来りましてあの町を直撃して非戦闘員が三十人ばかり死んだ。俺が三軒程壊された。タイの軍隊は怪しからぬ」と言つて憤慨しながら「自分は砲兵だものでありますから大砲を以てタイ側に無暗にぶつ放つた。ところがあのタケク四りのメコン河は約八百米位距離がありまして、幾ら此方から打つばなしても向ふの方は一向こたへない。実に口惜しかつた。若しあの時に日本軍が佛印に進駐した當

b 1.3.3.0-1 2809 0219

2810

b 1.3.3.0-1

時フランス軍が持つて居つた優秀な武器が今日尚ほあつたならばタイなどをやつ付けるのは極めてイージーであつたのだと言つて口惜しがつて居りました。事実フランスは日本軍の進駐前にトンキン地方の要所に優秀武器を全部集めて彼處に備へて居つたさうであります。それを日本軍が進駐に際しまして鹵獲致したのであります。中には相當優秀な大砲もあつたさうであります。斯ういふやうに結果論的ではあります。佛印は日本軍の進駐に依つて優秀武器を失つて居る。僅かにあつた優秀なる武器が全部日本軍にやられてしまつた。日本軍はさういふ事実からいふ偶然にタイの國境戦争を援助した形になるわけでもあります。タイとしてはこの点も非常に日本に感謝せぬばならぬのであります。兎もあれ、優秀なる武器が佛印として出られ、残りの残りない武器で戦争して居る。これで勝味がある筈はない。其處へ持つて来ましてタイ側では失地回復といふ國民的の意が籠つて居る。戦争に對する大義名分がある。フランス側

b 1.3.3.0-1 2811 0220

の方は大義名分がない。而もフランス軍隊は安南人或は外國人の混成部隊と云つた種々な種々な軍隊である。これ等がさう士氣旺盛である筈もない。殊に重要なのは大多數を占めるところの安南人がフランス人に好意を持つてゐない。寧ろ種族的には近いタイの軍隊と戦争しなければならぬことを疑ふやうな状態にあつた。又安南軍の中には名前は安南軍でありますけれども、カンボヂヤ、ラオスから来て居る兵も居る。これ等の中には種族的に全くタイ人も居るのであります。斯ういふやうな種族上の問題もフランス側の弱い原因の一つであります。その上に環境的には佛印の地位がどんなものであるかといふことを軍隊の者が薄々知つて居る。日本との關係又タイと日本とが感情的に親しい。本當か嘘か知りませんが、國境とタイの背後に日本があるのだといふ風に考へて恐ろしくなつた。とはタイの背後に日本があるのだといふ風に考へて恐ろしくなつたのが動機であります。その後日本がタイの背後にないといふことが

b 1.3.3.0-1 2812

かつてフランス側では少し安堵もしたといふやうなことを吉ふ人もあります。真偽の程は知りませんが、少くともフランス人の心理の上では日本とタイとの握手といったやうなことも考へてゐたやうであります。このやうな諸條件から戦争にフランス軍が破れるのは當り前で、タイが勝つのが當然であつたと思ひます。

ハ、 佛印側軍紀の弛緩

もう一つ附加へて申し上げますと、私がサイゴンの町に行きまして見たいものはカーキ色の軍人が女を伴れて朝から晩までカフェエーのテラスで麥酒や葡萄酒を飲んで居る姿であります。これがサイゴンの町では実にびつたりして居ります。一向妓ではないのであります。さういふ事が夜でない程サイゴンの町といふものは或はフランスの兵隊といふものはさういふ生活に慣れ切つて居る、といふことでもあ

ると思ひます。戦争に敗れて戦線から歸つて来た者が女を伴れて朝も晝間も夜もカフェエーのテラスで麥酒や葡萄酒を飲んで居る。斯ういふ状態は他所の國では許されぬことだらうと思ひます。併し彼處に於きましてはこれが町の一つの平常なる風景のやうに吾々旅人に受けられたことでもあります。又あのサイゴン河の畔に支那料理か何かの食はして呉れる所があります。其處で私達が飯を食つて居た。その時に戦線から歸つて来た細用船が着いた、その船から日焼けた戦線から敗れた兵共がぞろ／＼と降りて参つたのであります。誰一人之を迎へる者が無い、而も直ぐ目と鼻先の河岸で御飯を食へながらそれを皆ちつと眺めて居るといふやうな状態であります。彼處には日本のやうな戦線から歸つた兵を捕ふ、感謝すると云つたやうな感情が一つもないのであります。

そんな状況であるに反しまして、タイの方では戦線から兵が歸つて來ると之を感謝する、又停戦線が決つたからと言つてタイ軍はち

6 1.3.3.0-1

2814

6 1.3.3.0-1

2813

0221

ことも返却して居りません、停戦線に止まりまして一向動かない。

一方佛印側ではあつて終つたといふやうな気持もあるといふやうして、戦線からぞん／＼休戦を取つて後方に歸つて來るといふやうな状況でありまして、何れの点から見ましても佛印側が勝てないのは當り前で、あれ以上佛印が戦争を續けて居ると、もつと／＼タイにやられたのぢやないかといふやうな印象を深くして参つたのであります。

今次停戦線の決定に當りまして両方の進出線の檢討が行はれましたが、初めタイの吉ひ余とフランス側の吉ひ余が違つて居つた。タイのやうな國は承開の國であるから噓も平氣で言ふであらうし、又勝つたことに當り高ぶつて勝手なことを言つて居るのだらうといふやうな見解があつたのであります。戦線を観察した人のお話に依りますと、噓を言つて居つたのが全部フランス側であつた。タイの方はちつとも噓を言つてゐなかつたといふことを申して居りました。

6 1.3.3.0-1

2815

0222

私共の佛印側に居つた特派員が戦線を觀察して参りましてこの事実を非常に認めて居りました。タイに居る日本人は大体に於てタイ最前線にありますが、このタイ最前線の人達に言はせますと日本の調停は少し早過ぎた。もう少し少い故つて置いたならばタイ軍はフンペン辺りまで行つたがもしれないうちにもあります。果して其最前まで行けたかどうが知りませんが、兎に角後を調べて見ましてもタイ軍の優勢であつた点に非常に驚いて居るのであります。

七、 ヒンズン首相の独裁力と英國の經濟力

このやうな關係で戦争の中にも両者の優劣が非常に現はれた。又戦争をして居るまで分らなかつたタイの國內情勢といふものが一つの試験管に掛つたやうなものでありまして、國境戦争といふ試験管に依つてタイが案外現在の政權の下に失地回復といふ一つの調停を

6 1.3.3.0-1

2816

中心として強化し、あるといふことが明かになつたといふことは言へると思ひます。現にビヅン政権は國境戦争以前に於て既に独裁者のやうに吉はれてはゐましたが、親英派、親支派と云つた勢力もあつたのでありますし、又親支派、親英派でないまでもビヅンに取つて代りうといふ野心家め政治家の中にはゐた。これ等の分野を見てもみますと、例の親目派と稱される軍令部長のレアン・メンを筆頭として通商局長のワニットとか或は警備局長のガイチットであるとか、又親英派と言はれるのが國防副大臣のレアン・プロム、或は大蔵大臣のアラジツト、或は支那人であるといはれる宣傳局長のナイ・ビウ、或は司法大臣ガムローといふやうに色々あるやうでございましてけれども、これ等の軋轢戦争が國境戦争を通じて非常に緩和され、國境戦争の勝利によつてビヅンと競争することが不可能となり、又親目派又は日本に反對でないものの勢力がのびたことは争へない事実であります。殊にビヅンに關する限り彼等は最早發言權がないと

E 1.3.3.0-1 2817 0223

いふ状況まで呈してゐるやうであります。ビヅンが如何に政界を独裁支配してゐるかといふことについて一つの面白い話がございます。それは先程も一寸語りましたやうに、色々外交交渉の話をすると當つて外務省を全く無視して彼自身が出先の外國使臣と話をして居るといふこと。もう一つは今次國境戦争調停に立つた日本が調停の申入れをなしたに對し、これが受諾も全くビヅンの独力といふか、ビヅンが決めたことのやうに聞いてゐます。ビヅンと日本の公使との間には話が早くから付いた。これが発表の時期について二人の秘密條項としてタイが日本側の提議を受諾して数日後に発表されたわけでありまして、この発表の打合せのと、早くもタイの要人の間に判るといふ手違ひがあつたやうであります。とにかくビヅンは彼が日本の調停を受諾しておき、そのことが閣僚に判つてゐた筈であるに拘らず、その後に至つて初めて閣議を召集して「日本側から斯く」の申入れがあつた。これはタイとして引受けた方が宜いと思ふ。

E 1.3.3.0-1

2818

と切り出し、閣議の同意を求めたものであります。ところが隨處は満場一致何の文句もなくその場で決つて居ります。これなどもビヅンが非常に政府内部で把持力を強くして來てゐる證據になると思ふので、現在多少ビヅンに對する反對的立場を執つたり或は機會を狙つて居つたやうな連中も最早彼に反抗出來ない。決して彼が國民希望の矢地回復といふ一段の成功を収めたといふことは、ビヅン自体を國民的英雄に作つて行つたものと云はざるを得ない。ビヅンの矢地回復運動に於てやつて來たやり方、其處に現はれた彼の傾向といふものが漸くタイの性格を明かにして來つた。即ち英國依存を中心とした行き方から次第に東望のタイ、日本と提携するところのタイといふ風に來つて參つて來たことであります。ビヅンそのものが今更どう考へて見ましても、既に彼の行動は日本との提携といふ線に乘出してしまつたのでありますから、後返りは出來ない。後返りをするとは彼の政治的生命をなくして行く危險がある。このや

E 1.3.3.0-1 2819 0224

うな姿を呈して居るのでありますから、政府の大官連中もビヅンのこの傾向に反するやうな立場を執るならばビヅンにいらまされることになるので彼の地位が危くなつて來るわけでありまして。二ういふ事晴によるか、最近には親英派といはれ、ビヅンの競争者といはれたアラジツトであるとか、親英派と言はれるやうな連中が、日本側から好意を持たれぬことを気に病んで彼等は、何も彼等は排日ではなけれども、日本の方が俺を排日にしてしまつて居るといふやうなことと言ふやうになつて居るやうであります。斯んなのも嵐の瞬間でありまして、彼でどう変わるか分りませんが、少くとも現状に於ては日本人との關係を持たうとし、或は日本に眠まれることを厭やがるといふ風を空氣が出て參つて居るのであります。これ等の点から見ましても國境戦争に成功を収めたビヅンが國內的に更に一段と把持力を増して參る。彼の對外政策が日本との提携といふ線を違ひ以上、彼の把持力が強ければ強い程反目派分子或はビヅン反對と云つ

E 1.3.3.0-1

2820

た風なコースを辿らうとする連中の立場が困難になつて参ります。こ
とだけはつきり言へると思ひます。

但し何と申しましても英國の勢力は彼等に於て非常に根深いもの
がある。英國としては経済的、金融的に彼等に強い力を持つて居り
ます。この英國の力の作用が、如何に心理的に、政治的に、軍事的
にタイの對日依存と申しますが、日英提携の線での國內強化を圖ら
うと致しまして、絶えず其處に障礙が起つて来るであります。
且又英國側は之を牽制するやうな諸手段を執るであらうと思はれま
す。眞に日本がタイを日本側に繋ぎ止めるには繋ぎ止めるやうな工
作も必要であります。又外國との關係を薄めるやうなこともし
てやらねばならぬと思ひます。この点につきましても例へば
貿易の協定であるとか借款の供與であるとかいふやうな経済上の諸
問題も當然今後において考慮されねばならぬ問題であります。又
タイが現在の日本との關係から離れて行けないやうな一つの牽制的

0225

2821

6 1.3.3.0-1

なる手段も軍事的にも考へられねばならぬと思ひます。斯うした事
が今後の日英間の最善すべき問題であり、具體化されねばならぬの
でないかといふ風に私は考へて居ります。特に日本に取つて初めて
の外交上の成功に思へる東京會議を東亞共栄圈運動の新しい出発点
とせねばならぬと思はれるし、又日本が久しい間大陸の諸地方でき
々政策を講じて参りましたが、現在のタイ程やり易いと思はれたる條
件に立つた相手國は私はないと思ひます。彼等に於ける親日的な勢
力といふのが現に彼等の独裁的權力を持つた者である。而も日本と
提携するといふ方向がある國のナシヨナリズムの方向たり得るとい
ふ條件であります。茲で日本がタイを強くしてやるといふやり方が
同時に日本の非常な利益にもなつて参る。斯んな條件に日本が曾て
對外國に於てなつたことがなかつた。少くも蔣政権の強化に兼出
した英國と蔣政権の關係のやうなものが今日のタイに對してのみは
日本にもあり得るといふ点を私は強く考へます。この点から日本の

2822

6 1.3.3.0-1

ハ、佛印の對日空見

今後のタイ政策といふものが出て来るのではなからうかといふ風に
見て参つたのであります。

之に反しまして佛印の状況でありますが、これも一應日本に不利
な第三國との取極なものはしないといふことを宣言したわけですが
彼等に見たフランス人の感情といふものは決して好くはありません。
サイゴンに参りました當時日本がタイ佛印嶺南輪旋者としての任務
遂行上の必然に基いて日本の軍艦が入つて居る。又暹田機關がなる
國境調停者としての任務遂行上の交通通信關係から日本の飛行機も
彼等に居ました。これ等はフランス人としては氣味悪がる必要はな
いのであります。フランス人は非常に日本を恐れ、何か日本がや
るのではないかといふ疑心暗鬼もあつたやうに思へます。日本の調停

0226

2823

6 1.3.3.0-1

を受諾した以上斯る機關が彼等に存在するのは當然なことでありま
して、之に對して反機動的な感情を抱くこと自体が彼等が誤つて居る
と言はざるを得ない。併し彼等の感情は好くない。サイゴンで日本
人との間の色々の小競合、それから又氷矢の暴行といふやうな事件
が頻發致しまして、新聞に載つてないものもございまして、吾々自ら
が遭遇した事件もございまして、彼等に居るフランス人の目付なにも
何か氣味悪く感ぜられるものもございまして。何故フランス人が斯う
いふ態度を示すのか、何故日本に對して悪いのかといふ点について
あの地に居る相當な權威者の意見を徴して見ましたが、元々サイゴン
ではハノイと違つて日本人に悪い。新聞にもよく現れましたが、
ゴール派が彼等に居るとか或はユグヤ人が英米資本を背景にして彼
等に頭張つて居るとか、色々なことが言はれますが、心理的には佛
印に居る者は、ゴール派のな感情を持つて居る者と見なければな
らないのであります。彼等が日本と提携し日本と一儲になつてや

2824

6 1.3.3.0-1

0227

0228

防止して居ります。例のサイゴン地方にある高台教の一派が共產党の名に於きましてフランス官憲から弾圧されて、高台教の連中がサイゴンの監獄に二ぱい収容されて居ります、彼等に二つ程の監獄がありまして、その二つの監獄に収容し切れずに煙草會社の工場に高台教の連中が放り込まれて居る。日本と致しましてはこれ等の連中が目の前でやられて居るのを見て、誰も気持好く思ふ者はないわけでありまして、併しながら現在の日佛印關係に於きましてそれは全く國內問題でありますから、何等の干渉発言権がないわけでありまして、斯ういふ状況をちつと何時までも見て行く限り、安南人は疑て日本に對して不満を抱くやうな時期も来るわけでありまして、日本が安南人に對する如何なる民族政策を持つかといふこともこの際目の下に迫った重要問題になつて來て居るやうに感ずるのであります。

十. 結 言

斯る色々な点から見ましても日本と佛印との關係はどうも平和的處理の名に於て片付けるものでないのぢやないかしらといふ風に考へて終つた所でございます。(了)

0230

6 1.3.3.0-1

2830

6 1.3.3.0-1

2829

0229